

# Fuu

あなたの暮らし。新しい風

TAKE  
FREE

FUKUYA LIFESTYLE MAGAZINE



vol. 2

動物と、暮らす

わたしをがらりと変えてくれた

犬との暮らし

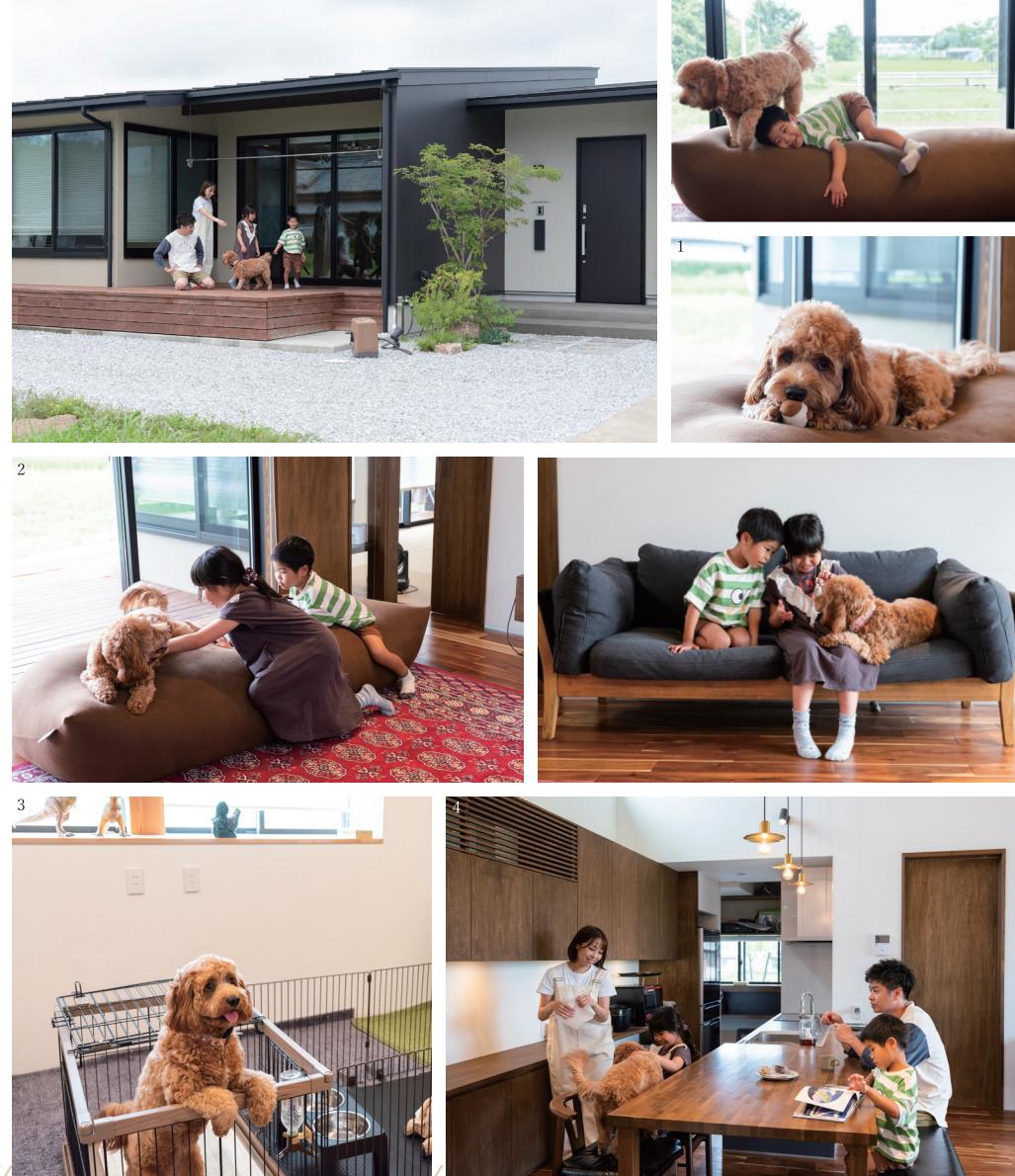
「わたしはずっと飼いたかったんです」  
犬との暮らしは、奥様たっての希望だった。  
家づくり中は、長男のこうたくんが産まれたばかりで余裕がなく、胸に秘めていた気持ちがうずきはじめたのが2年ほど前。ご主人を説得するためこつこつとアピールを続け、念願かなってアーニャをお迎えしてから1年3ヶ月が経つ。



朝夕のお散歩や食事のお世話に加えて、お手や伏せなどのしつけ、シャンプー、トリミングまで…かいがいしくお世話をする奥様は、大変そうだが生き生きとしてみえた。

「実家では猫を飼っていたんですが、猫と比べて散歩も必要。手がかかりますが、出不精のわたしにとってはむしろ好都合で。アーニャのおかげで世界が広がっています。」

そう話す奥様は、苦手に感じていた人付き合いが犬を連れているだけで嘘のように楽しいものになったと話した。いまでは、お散歩やドックランを通じて新しい友人もできたという。引きこもりがちな奥様を心配していたというご主人は、犬との暮らしを目いっぱい楽しむ奥様のお話をとても嬉しそうに聞いていた。



1. ピースクッションのYogibo(ヨギボー)は、お気に入りの居場所。2. アカシアの無垢フローリングは硬さがあり傷が付きにくく安心。リビングには犬の足にストレスがかからないようラグマットを敷いている。3. 仕切り壁のない子供部屋の中央には、ケージが設置されている。4. キッチンから繋がるテーブルは、空間に合わせて設計された造作家具。真鍮のライトにも施主様のセンスが光る。

もちろん子どもたちにもいい変化があったという。家族でどこかにでかけるときは「アーニャはどうするの?」と、すっかり家族の一員として扱う思いやりも芽生えている。小学校2年生になる長女のほちゃんは、すでに水替えのお世話も担当してくれるよう。子どもの頃にペットのお世話を経験することは、自尊心や共感性を育むとてもいいきっかけなると言われている。長男のこうたくんは、お互いに遊び相手。この日もお気に入りのYogibo(ヨギボー)を取り合う光景が。ほとんど同じ背丈のふたりが何とも微笑ましく、ご夫婦にとっても至福の光景になっているんだとか。

今後は、家の前にドックランをつくることを夢みており、すでに計画をはじめている。

10帖ほどのリビングは、犬を飼い始めてからは少し手狭に感じていることもあっ

て、南側の大きな掃き出し窓から中と外を自由に行き来できるようにしたいと考えるようになったという。

お互いに快適な暮らしをもとめ、暮らしはますます楽しいものになっていきそうだ。手がかかるからこそその喜びいっぱいの「犬との暮らし」には、人生をがらりとかえるほどの魅力が詰まっていた。



豊永様邸

家族構成：家族4人、犬1匹  
竣工年：2020年1月  
構造：木造平屋建て  
延床面積：30.24坪



